

友の会事業活動から

第35回 友の会会員作品展

世田谷美術館区民ギャラリーにて

11月16日(水)～20日(日) 出品者90名 出品作品数173点



新型コロナ第7波の収束も東の間、第8波到来の兆しの中、昨年に続き「第35回友の会会員作品展」の開催にこぎつきました。

11月15日の搬入日はあいにくの雨模様でしたが、90名の出品者は極力密を避けながら予め時間を区切って分散搬入を行いました。一般の会員作品のほか、今年は油彩、水墨画、木彫刻、銅版画、水彩画の5講座を実施することができたので、講座作品の展示が多数ありました。また、講座の先生方の特別出品も賜りました。

酒井忠康館長に一点一点丁寧に鑑賞していただき、館長推賞として15点のTOTTEMOII賞が選定されました。丁寧な展示指導をいただいた橋本善八副館長、きめ細かな作品講評をいただいた村上由美学芸部長はじめ館員の方々に諸々ご協力をいただきました。

会期中739名の来場者があり、皆さん大変熱心に鑑賞されていました。

(友の会総務企画部)

「会員作品展」に参加して

斉藤義雄

砧公園では木の葉のグラデーションが輝いている。そしてまた芸術の秋が終わりを迎えようとしている。

コロナウイルス感染者が増加傾向にある昨今、第35回友の会会員作品展に、早矢仕素子講師の油彩講座で人物画1点と、板倉美智子講師の水彩画講座で日比谷公園で描いた1点を出品することができました。私は絵をキャンパス、画用紙に向かって描いている時間が大好きです。その結果としてできた愚作を、皆様にご覧いただくことは大変失礼なのですが、絵を描くことで世の中の雑念を忘れ時を過ごすという楽しみをお勧めしたいです。私はお絵描きグループ(サロン・ド・アマツール)の仲間と一緒に絵を描くことを楽しんでいます。

今年の会員作品展に美術館の方々、世話人の方々のお陰で参加させていただくことができ難う御座いました。また来年も友の会の行事ができるようにコロナウイルス感染が収まるように願って居ります。

藤井由美子

この度は友の会会員作品展に初めて出品させていただき、大先輩方の本当に素晴らしいお作品に心打たれた数日間でした。

私は世田谷美術館美術大学の31期生ですが、同期展とは違って多くのご出品者の方を存じ上げない友の会展で、熱意に溢れる力作を拝見し、長きに渡る制作のお話を伺い、新たな気付きや豊かな刺激をいただきました。どのお作品もイキイキと光るように見える展示そのものにも感服致しました。

献身的なお心遣いをいただきましたお世話役の皆さま、また柔らかな聞き役というスタンスで素敵なお話を賜りました村上由美学芸部長さまに、心より感謝申し上げます。また次回、この場で皆さまとお会いできますことを楽しみに致しております。



酒井忠康館長

村上由美学芸部長による講評

友の会主催 解説・鑑賞会

ミュージアム コレクションII

「荒井良二のオールぶるっと!」

こんなに楽しい世田谷美術館の収蔵品

解説：矢野進学芸部美術担当マネージャー

10月1日(土) 参加者23名

宮澤春美

荒井良二? オールぶるっと? と「?」だらけなので鑑賞会に参加しました。素地がないから解説を聞けば素直に耳に入るかと思ったら、やはり言葉につまずいて疑問のままお話を聞いていました。

作品をスクリーンで観ながらやっと作品の内容が見えました。個々の作品の持つ色使い、枠からはみ出す絵画、コンクリートの彫像、下手にしか見えない絵の数々。作品選びや展示の順番などのご苦労が話されていましたが、観て回りながら程よい距離感でとても観やすかったです。荒井良二さんのコメントも優しくて、彩色されているいづれも素敵でした。作品も実物は力強かったり配色が鮮やかだったり印象的な作品ばかりでした。バッファローは印刷されているチラシの印象とはまったく迫力が違い立体的で「おお!!」と声が出そうになりました。

会場に足を運び実際の作品に会うことが大事、知識があれば理解も深まると思った企画でした。



友の会主催 解説・鑑賞会

「宮城壮太郎展 — 使えるもの、美しいもの」

解説：野田尚稔学芸部企画調整担当マネージャー

10月15日(土) 参加者20名

庭野敦也



今回の講演では、宮城壮太郎の生い立ちから、重要なキーマンとの出会い、およびそれらの活動を通じて本人の仕事への向き合い方や人柄について語っていただきました。

その中でも、壮太郎の理念の一つである「ユーザ視点で物事を考える」という一貫とした姿勢に感銘を受けました。私は、製造業の設計という仕事に従事しているのですが、設計とデザインというアプローチ方法は違いますが、目指すところは同じであり、大変共感することができました。また、壮太郎はコンサルタントの仕事においても、その企業にとって本当に改善できると思ったことに対しては、忸度なしの厳しいアドバイスをおくっています。経営者にとっては、耳が痛い話ではありますが、壮太郎の思いや情熱が伝わり、やがて信頼関係が築かれていきます。

この展覧会を鑑賞した後、私も自分の仕事に対する姿勢を振り返ってみて、まだまだ未熟だと気づかされ、少しでもそんな仕事の姿勢に近づけるよう日々精進していきたいと思いました。

友の会主催 解説・鑑賞会

「祈り・藤原新也」展

解説：三木敬介主任学芸員

12月17日(土) 参加者37名

岡田世郎

三木敬介学芸員のレクチャーで、作家の生い立ちと作品の関係、メメントモリ(生と死)を社会現象にまでしたカリスマ性、言葉と写真が一体になる作品の手法、作家を突き動かす肝の据わった視線などがより深く理解できました。また、作家自ら回顧展になるのを拒み、現在の視線を軸にした会場構成にこだわるエピソードなどは展覧会を協働したからこそその情報でした。

会場では解説風なキャプションが一切なく、写真と渾然一体となった



大きな言葉がダイレクトに語りかけてきます。考え抜かれた会場構成は経験したことのない爽やかな空間でした。

絵画は、鑑賞者に謎を問いかけてくる。写真は、解答を先に示してその後で鑑賞者は、謎に引き込まれて行きます。目で見ただけのしか信用しないとこの作家が、生と死が隣り合わせて寄り添い、永遠に失われていく無常に手を合わせる。会場でこの作家が展覧会のタイトルを「祈り」としたこの意味を強く感じました。

水彩画講座

講師：板倉美智子

10月14日(金)～28日(金)全3回 参加者20名

秋に楽しい水彩画講座

眞鍋三紀子

昔から油絵をときどき描いていました。でも、歳とともに油絵の具の準備後片付けも面倒になってきて…水彩画なら気軽に描けるんじゃないか、と安易な考えから1年ほど前から透明水彩に手を染め始めました。

ところがどっこい、透明水彩は色を塗り重ねる順番も油絵とは異なり、マスキングの技法などなど、やってみると結構奥が深く、自分で描いていて迷うことばかり。

そんな時、板倉先生の水彩画講座のチラシを拝見し、渡りに舟と受講を申し込みました。戸外でのスケッチの日もあり、小春日和にならさぞかし気持ちよいでしょうと楽しみに参加しました。

日比谷公園でのスケッチの日はとても良いお天気でした。木漏れ日の風景は実際に描いてみるととても難しく苦戦しましたが、好天の下でのスケッチはそれを超える楽しさがありました。戸外スケッチの日以外は世田谷美術館創作室で先生にじっくり絵を見てもらいながら教わることもできました。やんわり優しい板倉先生の声は耳に心地よく、きっと来年も受講する!という予感がしています。



第33回 アート散歩

長谷川町子美術館・記念館～向井潤吉アトリエ館

11月9日(水) 参加者19名

アート散歩に参加して

小原洋子

でこぼしたあたたかみのある赤煉瓦の長谷川町子美術館にアート散歩参加者十数名は秋晴れの青空のもと集まりました。学芸員の方から美術館完成までの経緯や収蔵作品のことなど伺い、ゆっくりと観賞する時間がありました。中川一政の大胆なバラの色彩と力強さに元気をたくさんもらいました。記念館では町子さんの人生を思いつつ、懐かしい『いじわるばあさん』が自分の年齢と重なり夢中で読んでしまいました。

住宅地の中を雑談しながら歩くこと20分。大樹に囲まれた向井潤吉アトリエ館に到着です。多くの日本民家の絵の中で私は民家の周囲の道に興味があり、坂道、あぜ道、奥へ続く道などに人々の生活する姿を思い、絵が身近に感じられました。

コロナで小さくなっていた心に、アート散歩は青空、建物、絵画、漫画などが自由で楽しい一日をプレゼントしてくれました。



思い出の美術館

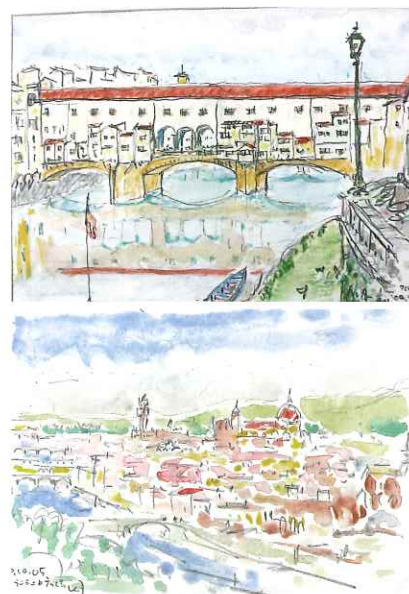
ウフィツィ美術館

福川公大

その機会は、急にやってきました。甥の結婚式が、クライストチャーチからフィレンツェに変更となり、いつもの研修日程と異なり、ゆっくりと時間が取れるチャンスが来たのです。

アルノ川を挟みミケランジェロ広場から市街地を觀てクーポラの街並みをスケッチし、ヴェッキオ橋を渡りウフィツィ美術館に歩き、20年前の私は元気でした。入館待ち時間に、楽しい橋と川をスケッチしました。細長い広場をコの字に囲む建物は、事務所と呼ばれる実質的なものでした。街の基幹的なものが利用された風景が大変興味深く、テートやオルセイ等再利用した美術館同様、素晴らしい人の知恵と情熱を感じました。

長い歴史を経て、ダビンチ、ボッティチェリをはじめ多くの作品を観ることが、現代の私達に対するギフトだと感じる旅でもありました。日帰り列車で移動し、芸術の街ローマも元気に歩き廻った楽しい思い出です。



アートライブラリー通信

第8回 デジタル化資料も上手に活用！ 美術雑誌を愉しむ

美術雑誌の代表格とも言える『美術手帖』や『芸術新潮』。アートライブラリーでは、それらをはじめ、アートやライフスタイルに関する様々な雑誌の最新号を自由に手にとってご覧いただけます。一方、閉架書庫では、古いバックナンバーも保管していますが、保管雑誌は、経年による紙の劣化や欠号のため利用が難しい場合も。そんなときは、インターネット経由で閲覧可能な資料も活用してみてください。

例えば、「国立国会図書館デジタルコレクション」。昨春よりデジタル化資料の個人向け送信サービスが開始されました。利用者登録など一定条件は必要ですが、約152万点もの対象資料が自宅のパソコンからも閲覧可能に！戦前の美術雑誌や、現在にも続く『民藝』も1950年代発行のものから読むことができます。他には、東京文化財研究所のWEBコンテンツ「『みづゑ』の世界」もおすすです。美術雑誌『みづゑ』の明治期刊行90号分のPDFデータを公開。WEBデザインもわかりやすく、目次からの記事閲覧など有用性が高いです。



アートライブラリーの雑誌架(現在、閉架書庫にある資料の当日閲覧はできません。詳しくはアートライブラリーにお問い合わせください。)

このように、様々な機関が雑誌を含め所蔵資料をデジタル化し、インターネット上で公開・活用しています。場所、時間に縛られずに閲覧できる利便性や、保存の観点からも、デジタル化資料の重要性を感じると共に、今後の展開に期待が高まります。

(世田谷美術館学芸部 司書・須藤美麗)

受賞のお祝い会

友の会活動への多大な功績により世田谷区の特別文化功労表彰を受賞された鬼塚満壽彦当会顧問をお祝いする会が、11月16日世田谷美術館講堂において開催されました。ご来賓の酒井忠康館長による鬼塚顧問のお人柄を称えるご挨拶のうち、花束と記念品をお贈りし、会場の皆さまとともに大いに喜びを分かちあいました。



新しい会員証



2023年度の会員証のデザインが決まりました。会員証の作品は収蔵品の中から選んでいます。

鬼塚満壽彦 作
《山峡・石畳の小径》
2005年 木口木版

世田谷美術館のフリーマーケット



11月6日に開催されたフリーマーケットに友の会も参加いたしました。コロナ禍のため世話人のみで行いました。

私のお薦めアート本

『美しきもの見し人は』 堀田善衛著

山下秀徳

「美しき」と書いて「うるわしき」と読む。文学者・堀田善衛による世界の美術についてのエッセイ集だ。その美に向き合う自由さと知性の豊かさに衝撃を受け、何度も読み返している。世界中を旅して、様々な文明や歴史に触れてきた著者は、自分の体験をもとに、絵画や彫刻や建築や、「美しきもの」を自分の中に取り込み、自分の言葉で語っていく。

「ヴェラスケスの仕事場に私の派遣したスパイ」では、「ラス・メニーナス」の中に入り込んだり、「モナ・リザには眉がない」では、モナ・リザの眉に着目したり、「常識のために 絵の具の話」では、絵具の歴史を辿りつつ、ゴッホのパレットに魅せられたりする。



実際に触れ、その背景を含めて理解し、自分で感じ、その上で自分の発想を飛躍させていく。美に向き合う姿勢を示されているようだ。もちろん、堀田善衛の知識・知性は半端なく、そこから導き出された文章は、私の知識では遠く及ばない所も多い。だからこそ、この感性と知性に憧れながら、何度も読みたくなってしまうのだ。

ご寄付のご報告及びお礼

会の存続と美術館支援のための寄付金が2023年1月末日現在、2021年1月からの累計で1,125,848円となりました。ご寄付及び会員更新をしていただいた皆さまに心より感謝を申し上げます。

小原洋子 匿名2名(前回以降の方々、順不同、敬称略)

(会費と寄付金の郵便口座 口座記号:001303 口座番号:119860 名称:世田谷美術館友の会)

*ご寄付の一部により美術館前庭に飾ったイルミネーションは、今年も夕闇に青く輝き、清澄で美しい空間を創出しました。友の会は美術館とともに世田谷の文化の灯を守り続けてまいります。



これからの事業について

- ◎さくら祭 4月1日(土)・2日(日)
- ◎実技講座 予定
- ◎美術講座 予定
- ◎アート散歩 3月予定
- ◎友の会総会 5月予定
- ◎解説・鑑賞会 企画展、ミュージアム コレクション展ごとに予定

*2023年度の各事業につきましては実施の詳細が決まり次第、会員の皆様にチラシや友の会ホームページ等でお知らせいたします。

世田谷美術館友の会への入会のご案内

世田谷美術館エントランスにはラテン語で「芸術と自然は密かに協力して人間を健全にする」と彫り込まれています。館のサポーター・ファンクラブである友の会に入会し、生活に彩りを加えてみませんか。特典や入会手続きは下記へ。



お問い合わせは友の会事務局へ
入会案内(リーフレット)や
下記ホームページもご覧ください。

tel.03-3416-0607
<https://setabi-tomonokai.jp/>